

令和6年度学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校定時制の課程） W05

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	-----------------------------------

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自律性、社会性の伸長を目指す 2 基礎・基本の定着と進路指導の充実を目指す 3 保護者、地域や他機関との連携・協働を積極的に進め、開かれた魅力ある学校を目指す 4 教職員の働き方改革に向けて、業務の見直しとICT化を図り、業務改善を目指す
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 小・中学校時代に不登校等を経験し、人間関係づくりが必要な集団活動をする学校生活に慣れていない生徒が各学年に複数在籍している。 【課題】 多様な困難を抱えた生徒が安心できる居場所となるよう、きめ細やかな教育活動を展開する必要がある。 生徒の自主性・自律性・社会性を育むため、生徒と職員の信頼関係を深めるとともに、教科指導のみならず、学校行事・部活動等の特別活動の充実が必要である。	生徒と職員の信頼関係を深め、生徒が安心できる居場所づくりを推進する	①教員間で生徒情報の共有化を図り、必要に応じて外部人材や関係機関と連携する。 ②学校行事や部活動を生徒が自主性をもって主体的に実施する。 ③「報告・連絡・相談」を徹底し、無断欠席、無断遅刻を減らす。	①外部人材や関係機関と適切に連携できたか。 ②行事や部活動において、生徒が自主性をもって主体的に実施できたか。 ③無断欠席者等を減少できたか。		
2	【現状】 大多数の生徒が小中学校の段階で学習面においてつまづいた経験をもっており、学習意欲の低い生徒が多い。また、クラス内での理解度の差が大きい。 【課題】 「わかる・できる」という成功体験を増やして欠点保有者の減少に努める一方、学習意欲の高い生徒を意識した授業を展開するなど個々の力を伸ばす必要がある。 生徒の進路実現のためにも、県教委の諸事業や外部人材を活用した粘り強い指導を学校全体で行う必要がある。	生徒の学習意欲を向上させ、自己肯定感を高める取組を推進する	①UDの視点を踏まえ、ICTとグループワークを活用することで学習指導を充実させる。 ②習熟度別指導を行うとともに、学習サポーターを活用することで基礎学力の定着を図る。 ③適切に進路情報を提示し、就職支援アドバイザーと連携することで生徒の進路希望を実現する。	①欠点保有者が減少したか。また、授業アンケート調査で7割以上の満足度が得られたか。 ②特に学習到達度の低い生徒を指導する上で、学習サポーターを適切に活用できたか。 ③生徒にとって必要な情報を提示できたか。また、生徒の進路実現ができたか。		
3	【現状】 本校定時制教育について理解してもらうべく、学校説明会や中学校訪問の実施、学校ホームページの更新に取り組んでいる。 また、PTAによる下校指導に取り組んでいる。 【課題】 本校定時制教育についての理解を中学生や同関係者、地域に十分浸透させるまでには至っておらず、一層連携を深める必要がある。そのために、適切な情報発信をする必要がある。	学校情報を積極的に提供し、保護者や地域及び関係機関との連携を深める	①学校ホームページを積極的に更新し、本校定時制教育の内容が分かる学校情報を発信する。 ②学校説明会や中学校への情報提供を実施する。 ③保護者と連携したPTA下校指導を実施する。また、学校行事を公開する。	①ホームページを1月末時点で50回以上更新したか。 ②効果的な学校説明会や個別説明会を実施するとともに、中学校への適切な情報提供ができたか。 ③保護者と協力した下校指導を2回実施できたか。学校行事を公開できたか。		
4	【現状】 教職員の働き方改革に向けて、外部人材を活用することで業務内容の効率化を図っている。 【課題】 社会の多様化に伴う教員の負担増大を業務の削減及び効率化を図り改善していく必要がある。そのためにナレッジマネジメント及びDX化を進めて資料の共有・蓄積を図り、業務の平準化を図る必要がある。	県教委の諸事業や外部人材を活用し、負担軽減を行う	①企画委員会において、各業務間の調整とDX化により業務の引継ぎの効率化を行う。 ②県教委の事業や外部講師等を活用しつつ、組織的な教育活動を進める。	①企画委員会を活用し、業務の効率化や削減ができたか。 ②教員の負担軽減に繋がる県教委の事業や外部講師等を活用するとともに、組織的な教育活動ができたか。		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和 年 月 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等		